

## II 調査回答者の概要

### 1. 職種

一般事務職	外交・営業	工場・生産現場	マスコミ現場	その他現業	販売員・店員	教職員	保育士
1513 (36.4)	18 (0.4)	25 (0.6)	17 (0.4)	72 (1.7)	19 (0.5)	317 (7.6)	200 (4.8)
看護師	学童保育指導員	介護福祉労働者	研究職	その他専門職	運輸・交通	その他	無回答
434 (10.4)	35 (0.8)	41 (1.0)	27 (0.6)	1253 (30.1)	61 (1.5)	86 (2.1)	37 (0.9)
合計							
4155 (99.8)							

一般事務職が回答者の中心的職種といえ、次いで看護師、教職員、保育士となっている。

注) 以下の4つの職種については回答者を次のように再編している。

一般事務職：一般事務職、国家公務員行政職、国家公務員税務職

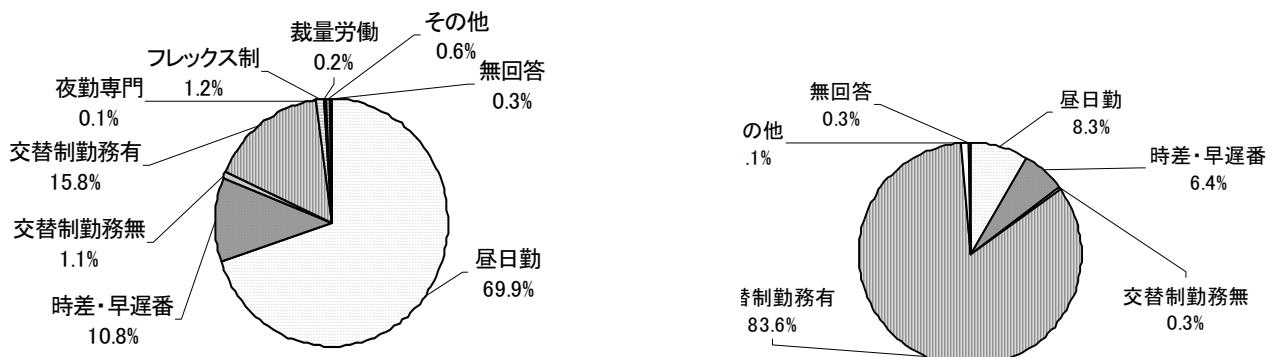
看護師：看護師、国家公務員医療職、研究職：研究職、国家公務員研究職

その他専門職：その他専門職、国家公務員専門職、国家公務員その他

### 2. 勤務形態

勤務形態では、「昼日勤」69.9%が最も多く、次いで「交替制勤務有」15.8%、「時差、早・遅番」10.8%となつた。前回調査ではフレックス制が2.7%だったが、今回調査では1.2%に減つていて。

勤務形態別に見ると、「フレックス制」が2割を超えているのはマスコミや研究職である。「時差、早・遅番」が2割を超えるのは外交・営業、保育士、学童保育指導員、その他となっており、なかでも保育士では8割、学童保育指導員は5割を超えていいる。「交替制有」が2割を超えているのは、看護師、介護福祉労働者、運輸・交通、その他専門職であり、なかでも看護師で7割、介護福祉労働者で3割、運輸・交通においても4割を超えていいる。



▲ 図B-1 回答者(全体)の勤務形態 ▲

▲ 図B-2 看護師の勤務形態 ▲

	昼日勤	時差、早遅番	交替制勤務無	交替制勤務有	夜勤専門	フレックス制	裁量労働	その他	無回答	計
全体	2903 (69.9)	450 (10.8)	46 (1.1)	658 (15.8)	4 (0.1)	51 (1.2)	7 (0.2)	25 (0.6)	11 (0.3)	4155 (100.0)
一般事務職	1370 (90.5)	82 (5.4)	20 (1.3)	10 (0.7)	0 (0.0)	27 (1.8)	1 (0.1)	1 (0.1)	2 (0.1)	1513 (100.0)
外交・営業	14 (77.8)	4 (22.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	18 (100.0)

工場・生産現場	23 (92.0)	1 (4.0)	1 (4.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	25 (100.0)
マスコミ現場	13 (76.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (23.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	17 (100.0)
その他現業	64 (88.9)	4 (5.6)	1 (1.4)	2 (2.8)	0 (0.0)	1 (1.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	72 (100.0)
販売員・店員	14 (73.7)	3 (15.8)	1 (5.3)	1 (5.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	19 (100.0)
教職員	302 (95.3)	1 (0.3)	4 (1.3)	4 (1.3)	4 (1.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.0)	0 (0.0)	317 (100.0)
保育士	20 (10.0)	162 (81.0)	1 (0.5)	13 (6.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (2.0)	0 (0.0)	200 (100.0)
看護師	59 (13.6)	36 (8.3)	4 (0.9)	327 (75.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (1.6)	1 (0.2)	434 (100.0)
学童保育指導員	13 (37.1)	19 (54.3)	0 (0.0)	1 (2.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (5.7)	0 (0.0)	35 (100.0)
介護福祉労働者	20 (48.8)	7 (17.1)	0 (0.0)	14 (34.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	41 (100.0)
研究職	14 (51.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (25.9)	6 (22.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	27 (100.0)
その他専門職	862 (68.8)	103 (8.2)	14 (1.1)	255 (20.4)	0 (0.0)	10 (0.8)	0 (0.0)	8 (0.6)	1 (0.1)	1253 (100.0)
運輸・交通	26 (42.6)	8 (13.1)	0 (0.0)	27 (44.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	61 (100.0)
その他	64 (74.4)	18 (20.9)	0 (0.0)	3 (3.5)	0 (0.0)	1 (1.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	86 (100.0)
無回答	25 (67.6)	2 (5.4)	0 (0.0)	1 (2.7)	0 (0.0)	1 (2.7)	0 (0.0)	1 (2.7)	7 (18.9)	37 (100.0)

### 3. 年齢

#### ◆全体

15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上	無回答	計
11 (0.3)	238 (5.7)	617 (14.8)	757 (18.2)	664 (16.0)	478 (11.5)	475 (11.4)	853 (20.5)	45 (1.1)	2 (0.0)	15 (0.4)	4155 (100.0)

年齢別では30代が最も多く34.2%、次いで40代22.9%、20代20.5%、50代20.5%となっている。

#### ◆職種別年齢

	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上	無回答	計
一般事務職	2 (0.1)	70 (4.6)	224 (14.8)	329 (21.7)	294 (19.4)	174 (11.5)	164 (10.8)	237 (15.7)	11 (0.7)	1 (0.1)	7 (0.5)	1513 (100.0)
外交・営業	0 (0.0)	1 (5.6)	2 (11.1)	4 (22.2)	3 (16.7)	2 (11.1)	3 (16.7)	3 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	18 (100.0)
工場・生産現場	0 (0.0)	2 (8.0)	1 (4.0)	6 (24.0)	3 (12.0)	2 (8.0)	0 (0.0)	8 (32.0)	3 (12.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	25 (100.0)
マスコミ現場	0 (0.0)	3 (17.6)	4 (23.5)	2 (11.8)	5 (29.4)	3 (17.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	17 (100.0)
その他現業	0 (0.0)	1 (1.4)	6 (8.3)	4 (5.6)	10 (13.9)	11 (15.3)	11 (15.3)	28 (38.9)	1 (1.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	72 (100.0)
販売員・店員	0 (0.0)	4 (21.1)	1 (5.3)	2 (10.5)	3 (15.8)	3 (15.8)	2 (10.5)	4 (21.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	19 (100.0)
教職員	0 (0.0)	2 (0.6)	18 (5.7)	24 (7.6)	32 (10.1)	48 (15.1)	60 (18.9)	129 (40.7)	4 (1.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	317 (100.0)
保育士	0 (0.0)	21 (10.5)	19 (9.5)	33 (16.5)	25 (12.5)	13 (6.5)	26 (13.0)	63 (31.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	200 (100.0)
看護師	0 (0.0)	39 (9.0)	48 (11.1)	48 (11.1)	45 (10.4)	42 (9.7)	70 (16.1)	136 (31.3)	5 (1.2)	0 (0.0)	1 (0.2)	434 (100.0)
学童保育指導員	0 (0.0)	2 (5.7)	6 (17.1)	7 (20.0)	1 (2.9)	4 (11.4)	5 (14.3)	9 (25.7)	1 (2.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	35 (100.0)

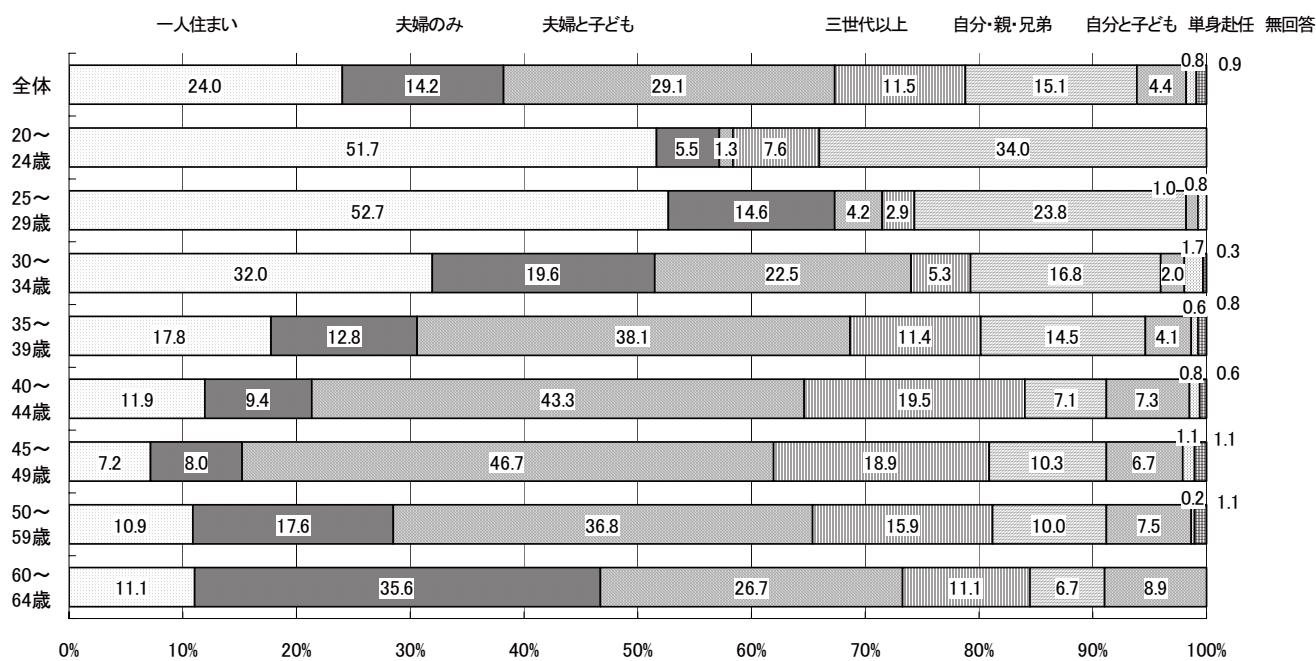
介護福祉 労働者	0 (0.0)	1 (2.4)	6 (14.6)	11 (26.8)	4 (9.8)	3 (7.3)	3 (7.3)	12 (29.3)	1 (2.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	41 (100.0)
研究職	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (14.8)	5 (18.5)	5 (18.5)	7 (25.9)	1 (3.7)	5 (18.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	27 (100.0)
その他 専門職	9 (0.7)	84 (6.7)	252 (20.1)	257 (20.5)	212 (16.9)	151 (12.1)	103 (8.2)	168 (13.4)	16 (1.3)	0 (0.0)	1 (0.1)	1253 (100.0)
運輸・交通	0 (0.0)	3 (4.9)	17 (27.9)	15 (24.6)	7 (11.5)	5 (8.2)	4 (6.6)	8 (13.1)	2 (3.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	61 (100.0)
その他	0 (0.0)	3 (3.5)	7 (8.1)	7 (8.1)	13 (15.1)	8 (9.3)	20 (23.3)	26 (30.2)	1 (1.2)	1 (1.2)	0 (0.0)	86 (100.0)
無回答	0 (0.0)	2 (5.4)	2 (5.4)	3 (8.1)	2 (5.4)	2 (5.4)	3 (8.1)	17 (45.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (16.2)	37 (100.0)

#### ◆勤務形態別年齢

	15～ 19歳	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳	50～ 59歳	60～ 64歳	65歳 以上	無回答	計
昼日勤	11 (0.4)	114 (3.9)	386 (13.3)	533 (18.4)	508 (17.5)	367 (12.6)	342 (11.8)	595 (20.5)	37 (1.3)	1 (0.0)	9 (0.3)	2903 (100.0)
時差・早遅番	0 (0.0)	45 (10.0)	60 (13.3)	81 (18.0)	58 (12.9)	44 (9.8)	55 (12.2)	102 (22.7)	3 (0.7)	1 (0.2)	1 (0.2)	450 (100.0)
交替制勤務無	0 (0.0)	5 (10.9)	7 (15.2)	10 (21.7)	8 (17.4)	3 (6.5)	5 (10.9)	7 (15.2)	1 (2.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	46 (100.0)
交替制勤務有	0 (0.0)	67 (10.2)	143 (21.7)	118 (17.9)	79 (12.0)	51 (7.8)	69 (10.5)	128 (19.5)	3 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	658 (100.0)
夜勤専門	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
フレックス制	0 (0.0)	5 (9.8)	14 (27.5)	8 (15.7)	9 (17.6)	6 (11.8)	1 (2.0)	8 (15.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	51 (100.0)
裁量労働	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	1 (14.3)	4 (57.1)	1 (14.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (100.0)
その他	0 (0.0)	1 (4.0)	5 (20.0)	6 (24.0)	0 (0.0)	2 (8.0)	1 (4.0)	9 (36.0)	1 (4.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	25 (100.0)
無回答	0 (0.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	1 (9.1)	2 (18.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (45.5)	11 (100.0)

#### 4. 同居の家族

	一人住まい	夫婦のみ	夫婦と 子ども	三世代以上	自分・ 親・兄弟	自分と子	自身 単身赴任	無回答	計
全体	998 (24.0)	589 (14.2)	1208 (29.1)	479 (11.5)	626 (15.1)	183 (4.4)	34 (0.8)	38 (0.9)	4155 (100.0)
15～19歳	1 (9.1)	1 (9.1)	1 (9.1)	2 (18.2)	3 (27.3)	0 (0.0)	1 (9.1)	2 (18.2)	11 (100.0)
20～24歳	123 (51.7)	13 (5.5)	3 (1.3)	18 (7.6)	81 (34.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	238 (100.0)
25～29歳	325 (52.7)	90 (14.6)	26 (4.2)	18 (2.9)	147 (23.8)	6 (1.0)	5 (0.8)	0 (0.0)	617 (100.0)
30～34歳	242 (32.0)	148 (19.6)	170 (22.5)	40 (5.3)	127 (16.8)	15 (2.0)	13 (1.7)	2 (0.3)	757 (100.0)
35～39歳	118 (17.8)	85 (12.8)	253 (38.1)	76 (11.4)	96 (14.5)	27 (4.1)	4 (0.6)	5 (0.8)	664 (100.0)
40～44歳	57 (11.9)	45 (9.4)	207 (43.3)	93 (19.5)	34 (7.1)	35 (7.3)	4 (0.8)	3 (0.6)	478 (100.0)
45～49歳	34 (7.2)	38 (8.0)	222 (46.7)	90 (18.9)	49 (10.3)	32 (6.7)	5 (1.1)	5 (1.1)	475 (100.0)
50～59歳	93 (10.9)	150 (17.6)	314 (36.8)	136 (15.9)	85 (10.0)	64 (7.5)	2 (0.2)	9 (1.1)	853 (100.0)
60～64歳	5 (11.1)	16 (35.6)	12 (26.7)	5 (11.1)	3 (6.7)	4 (8.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	45 (100.0)
65歳以上	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
無回答	0 (0.0)	2 (13.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (80.0)	15 (100.0)

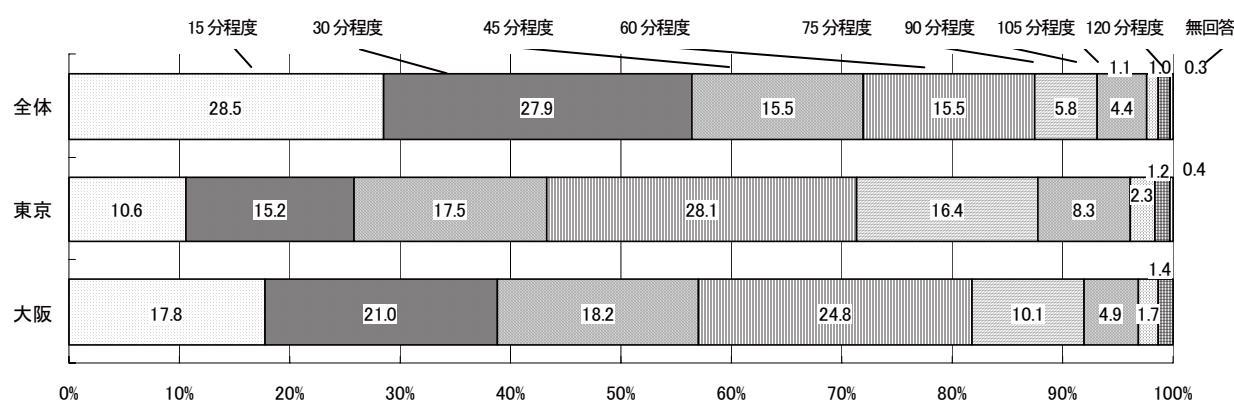


▲ 図 C 回答者の同居家族(全体と年齢別)▲

「夫婦と子ども」世帯が 29.1%ともっとも多いが、02 年調査の 36.8%から 7.7 ポイント減少した。次に多いのは「一人住まい」24.0%で、02 年調査の 15.1%から 8.9 ポイント増加した。

## 5. 片道の通勤時間

	15 分程度 または未満	30 分程度	45 分程度	60 分程度	75 分程度	90 分程度	105 分程度	120 分程度 かそれ以上	無回答	計
全 体	1186 (28.5)	1158 (27.9)	643 (15.5)	645 (15.5)	240 (5.8)	181 (4.4)	47 (1.1)	41 (1.0)	14 (0.3)	4155
東 京	60 (10.6)	86 (15.2)	99 (17.5)	159 (28.1)	93 (16.4)	47 (8.3)	13 (2.3)	7 (1.2)	2 (0.4)	566
大 阪	51 (17.8)	60 (21.0)	52 (18.2)	71 (24.8)	29 (10.1)	14 (4.9)	5 (1.7)	4 (1.4)	0 (0.0)	286



▲ 図 D 片道の通勤時間(全体と東京・大阪)▲

通勤時間は、「15 分程度または未満」が 28.5%と最も多く、次いで「30 分程度」が 27.9%と続き、半数以上の人人が 30 分程度内の通勤となっている。東京と大阪を比較すると、東京では通勤時間 60 分程度以上は 56.7%、大阪では 42.9%と、東京の方が通勤時間が長い傾向がうかがえる。

## 6. 年収(税込み)

### ◆全体

100万円未満	100～150万円未満	150～200万円未満	200～250万円未満	250～300万円未満	300～350万円未満	350～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600万円以上	無回答	計
19 (0.5)	45 (1.1)	86 (2.1)	196 (4.7)	328 (7.9)	452 (10.9)	421 (10.1)	824 (19.8)	659 (15.9)	1012 (24.4)	113 (2.7)	4155 (100.0)

税込み年収は600万円以上が24.4%、次いで400～500万円が19.8%と多い。300万円未満は16.3%である。

## III 調査結果の概要

### 1. 疲れの回復、今の健康状態等

疲れの回復状況については、特に感じないはわずか3.4%で、「疲れが翌日に残ることが多い」と「いつも疲れている」を合わせると62.9%にのぼっている。

今の健康状態については全体の約1/3は「健康である」と回答しているが、5割弱が「健康にやや不安がある」と回答している。

自覚症状で最も多かったのは「肩がこる」68.7%、次に「目が疲れる」60.0%、「身体がだるい」46.3%で、身体的な症状を訴える人が多かった。また、「心配ごとがある」33.6%、「イライラする」29.7%、「うきばらしをしたい」29.7%など精神的な症状も多く的人が訴えている。

身体の具合が悪くても休めなかつたことが「ある」と回答しているのは61.4%となっている。その理由は、「仕事が多忙」31.0%、「人員不足」34.8%となり二つの理由が全体の2/3を占めている。

薬剤を常用している人は約6割で、ビタミン剤や鎮痛剤を服用している。

睡眠時間は6時間程度が約3割だったが、5.5時間程度以下も3割を超えている。

年齢別では、年齢が上がるほど、健康であるとの回答は少なくなっている。

### 2. 最近での残業時間、未払い残業、持ち帰り残業時間、休日出勤等

最近1ヶ月の職場での残業は、「なし」が21.9%で、10時間未満が最も多く39.7%だった。過労死ラインの80時間以上は32人で0.8%、うち100時間以上は16人で0.4%いる。

持ち帰り残業は、「なし」が7割弱となった。サービス残業（未払い残業）は、「まったくない」は51.8%で、4割以上がサービス残業を行っている。

最多忙月の残業時間は、「残業なし」は12.2%で、80時間以上が146人で3.5%、うち100時間以上は74人で1.8%となつた。

職種別では、マスコミ現場、教職員、保育士、学童保育指導員、研究職などで残業が恒常化している。

残業の主な理由としては、半数が「自らの責任で期日までにやらなければならない」としており、3割以上が「後日自分でやらざるを得ない」、3割弱の人が「要員・人手不足」としている。

### 3. 年次有給休暇の取得、使途、とらなかつた理由

約半数が「年休はわりあい自由にとれる」としているが、「とりたくてもほとんどとれない」が1割だった。職種別では、「ほとんどとれない」が看護師、介護福祉労働者で3割超となっている。勤務形態別では、交替制勤務ありで「ほとんどとれない」が2割を超えている。

年休の取得日数は、「16～20日」が最も多く30.9%、次いで次いで「11～15日」24.8%、「6～10日」23.1%

だった。職種別では、10日以下が7割を超えたのは、介護福祉労働者、販売員・店員で、外交・営業では「まったくとれない」が11.1%となった。

年休の使途は、「休養」が最も多く50.4%、次いで「旅行」44.5%、「自分の病気」44.1%となった。半数以上が「休養」のため休暇を取得している。

年休をとらなかつた（とれなかつた）理由は、「要員不足のため同僚の迷惑になる」42.2%が最も多く、次いで「自分や家族の病気や急な用事のために残しておく」36.1%となった。職種別では、「要員不足のため同僚の迷惑になる」が、学童保育指導員68.6%、介護福祉労働者58.5%、看護師57.1%、と多かった。「顧客や利用者・生徒・患者などに迷惑がかかる」が教職員で突出しており50.8%となっている。

#### 4. 通常、日勤の人の最近1ヶ月における午後10時以降の時間外労働回数及び、通常、夜勤のある人の最近1ヶ月の10時以降の夜勤・宿直勤務回数

通常日勤の人で最近1ヶ月、午後10時以降の時間外労働は、「ない」が最も多く81.7%となった。通常、夜勤のある人、宿直のある人の多くは看護師とその他専門職がしめており、1ヶ月の10時以降の夜勤の回数は看護師で「8回」が33.3%、「3~4回」18.7%となった。その他専門職は「3~4回」が47.1%となった。1ヶ月の宿直回数は看護師で「3~4回」が16.2%、「8回」11.9%となった。その他専門職は「3~4回」が36.1%、「1~2回」が12.9%、「5~6回」が9.8%となった。

#### 5. 1週間のうち家族と一緒に夕食をとれなかつた回数

一人住まい・単身赴任を除いて、「家族と夕食をとれない日はない」が最も多く40.8%、次いで「1~2回」26.5%で、約67%の人は週5日は家族と夕食がとれている。しかし、「毎日」4.2%、「5~6回」9.2%とあわせて約13%の人がほとんど家族と夕食をとれていなかつた。職種別では、「ない」が6割を超えていたのは、その他現業だった。「ない」が少なかつたのは、看護師8.0%だった。「毎日」と「5~6回」を合わせた割合が多かつたのは、マスコミ現場50.0%、販売員・店員27.8%、看護師25.9%となった。

#### 6. 過労による健康や生命への不安

過労による健康や生命への不安については、「常にある」10.4%、「ときどきある」42.7%で、あわせて50%以上の人人が不安をもっている。職種別に見ると、「常にある」と「ときどきある」の合計で最も多いのは、介護福祉労働者78.1%、次いで看護師72.5%、教職員72.9%となった。

#### 7. 99年4月の労基法等の「女子保護」規定廃止による働き方の変化

時間外労働、休日労働、深夜労働について、それぞれ「変わらない」が70%以上を占めているが、「増えたと」回答している人は、02年調査と比較すると「時間外労働」8.4%から13.3%、「休日労働」4.3%から7.1%、「深夜労働」2.3%から2.9%と増加しており、女子保護規定撤廃により時間外・休日・深夜労働が増えている

#### 8. 月経の周期、月経の苦痛の程度、月経時の鎮痛剤使用

閉経を除いた割合で見ると、「順調」44.5%、「時々不順」34.4%、「不順」13.9%となっている。半数以上は不順・異常を訴えている。年齢別では、45歳以上は「順調である」の割合が少なくなっている。30歳未満で「月経異常(無月経)」が人6人、35歳から39歳で「閉経」が4人いた。月経の苦痛の程度は、「非常に苦痛」と「苦痛」を合わせると46.0%が苦痛を感じている。

月経時の鎮痛剤の服用は、服用する人としない人が半々の結果となつたが。また、年齢別では若年層ほど服用

率が高い。

#### 9. 「生理休暇」の取得、生理休暇がとれない(とらない)理由

「生理休暇を潮時取得する」人は 6.0%のみで、「とっていない」が 78.6%となっている。職種別では、販売員・店員、教職員で取っていない人の割合は 90%前後となっている。

生理休暇をとらない理由は、「人員不足・多忙でとりにくい」が 44.4%と最も多く、次いで「苦痛ではないので必要ない」 28.7%、「はずかしい、生理であることを知られたくない」 22.5%、「請求手続きが面倒」が 9.2%だった。

20 歳代前半で、「はずかしい、生理であることを知られたくない」、「生休はとるべきではない」、「制度があることを知らなかった」が他の年代よりも多かった。

#### 10. 自分の職場での女性に対する差別の有無、ポジティブ・アクション実施や男女差別の是正状況

職場における差別については、「差別がある」との回答を多い順に見ると、「昇進・昇任」 27.1%、「配置」 26.4%、「賃金」 17.5%、「募集・採用」 14.3%、「教育訓練」 13.1%、「定年・退職」 7.9%、「福利厚生」 6.3%となった。「わからない」が多かったのは、「昇進・昇任」 40.0%、「募集・採用」 39.3%となった。

「セクシュアル・ハラスメント」は「ある」が 2 割を超えており、「ポジティブ・アクション」は「実施されている」との回答は 5.7%のみで、「わからない」が 7 割を占めている。

#### 11. 自分が職場でセクハラ、パワハラを受けたことの有無とそれへの対処

約 3 割が職場でセクハラを受けており、その内容は「ことば」が 7 割強、「身体を触られる」 4 割強、「卑猥な話など職場環境」 2 割強、「性的な関係を迫られた」 5.4% となった。対処としては、「だれにも言わずに耐えた」が最も多く 34.8%、次いで「相手に抗議・拒絶してやめさせた」 33.0%、「同僚・友人に相談した」 32.2% となった。労働組合や職場・公的機関への相談はいずれも 5 %未満に止まった。

1 割超が職場でパワハラを受けていると回答している。その内容は多くが「ことば」によるもので 85.0% となった。対処としては、「同僚・友人に相談した」 36.5%、「だれにも言わずに耐えた」 30.0%、「相手に抗議・拒絶してやめさせた」は 14.8%、となった。労働組合への相談は 9.9% だったが相談機関への相談はいずれも 2 % 未満に止まった。

#### 12. 仕事をやめたいと思うことの有無

「いつも思っている」と「ときどき思う」を合わせて約 7 割が仕事をやめたいと思うことがあると回答している。職種別では、「いつも思っている」と「ときどき思っている」の合計が最も多かったのは、販売員・店員 94.7%、外交・営業 88.9%、看護師 85.3% だった。

#### 13. 自分の仕事に感じていること

最も多かったのは「多忙で身体的・精神的にきつい」 47.0%、次いで「仕事の責任が重い」 36.0%、「職場の人間関係が難しい」 29.1% となった。

#### 14. 雇用不安の有無

「強く感じる」 13.9%、「ときどき感じる」 46.9% を合わせて 6 割が雇用不安を感じている。

#### 15. 職場の状況から今、もっとも切実な要求

最も多かったのは「人員増」の 53.0%、次いで「賃金の引き上げ」49.2%、「労働時間の短縮」22.3%となつた。

職種別では、選択肢別に要求の多かった職種を見ていくと、「賃金の引き上げ」は工場・生産現場で 8 割を超え、学童保育指導員、介護福祉労働者、保育士で 6 割を超えている。「人員増」は介護福祉労働者、看護師、教職員、運輸・交通で 6 割を超えている。「休日・休暇の増加」は工場・生産現場で、「教育訓練・研修制度の改善・拡充」は販売員・店員で、「リストラ「合理化」をやめる」は研究職で、それぞれ 3 割を超えている。「退職金の引き上げ」と「労働安全衛生・職場環境の改善」はその他現業で、「母性保護拡充」はマスコミ現場で、「労働時間の短縮」、「成果・業績賃金・人事管理をやめる」は教職員で 3 割弱となっている。「人間関係の改善」は介護福祉労働者で 2 割を超えている。その他、「不払い（サービス）残業の一掃」は販売員・店員で、「変形労働の是正」は運輸・交通で、「時間外・休日・深夜労働の割増率の引き上げ」は看護師で、「育児休業制度改革改善」は運輸・交通と研究職で、「介護休業制度改革改善」は研究職で多かった。

## 16. ストレスを感じること

全体では、「人間関係」が 57.0%と最も多く、次いで「仕事上の悩み」48.6%、「将来への不安」46.9%となつた。年齢別では「人間関係」は 20~24 歳で 65.5%、25~29 歳 62.2%、「仕事上の悩み」は 25~29 歳で 58.5%、「子育て」は 40~44 歳で 31.4%、35~39 歳で 28.0%、「社会・経済・政治」は 60~64 歳で 33.3%、50~59 歳で 24.9%と多かった。

## 17. 2 週間以上の介護を必要とする家族の病気・けがの有無、介護への対処のしかた、介護休業制度の改善にむけた要求

全体では「ある」は 11.9%、「ない」は 83.1%となつた。年齢別では、50~59 歳、60~64 歳で「ある」が 2 割を超えている。

介護への対処としては、「年休を取った」56.6%、「他の家族が介護にあたった」54.9%、「ヘルパー・介護保険を利用した」18.4%となつた。「介護休業をとった」は 6.5%となつた。

介護休業をとらなかつた人に理由をたずねたところ、「自分以外の介護者がいて必要なかつた」が最も多く 30.9%、「人員不足や職場の状況から」26.3%、「手続きがめんどう」11.0%となつた。

介護休業制度改革改善のための要求としては、全体では、「代替要員の配置」が最も多く 38.3%、「期間の延長」、「短期の家族看護休暇の実現」、「取得回数を増やす」もそれぞれ 3 割前後が求めている。